

10月4日(土)

サーモン
まぐろ いか
海老 鯛
太刀魚

海鮮巻き

赤酢舎利を使った

1パック

1,280(税込)円

10月5日(日)

8種の北海ネタをドーンと乗せた

歩久斗の北海丼

1パック

1,280(税込)円

あー、9月も終わった。あつとゆーま、早いですね。9月は充実した休みを過ごしていました。初の船旅行へ。名古屋から22時間揺られ、仙台まで行つて参りました。目的は、のんびり旅行(笑)。そして、帰りの飛行機、仙台空港で鮮魚のお客様に遭遇。嬉しくて思わず声をかけました(笑)。

先週は大山登山。おそろく人生2回目の登山。1回目は富士山です。心の中で富士山登れたんだから、どこでも登れる!! 勝手な自信!! 笑。カッパを着てのスタートでしたが、まあ階段のしんどさ、達成感はすごく感じましたが、1番の幸せは降りた後の温泉でした(笑)。4日間は筋肉痛が続きました。

さてさて、今回は土、日曜日とおすすめしていきます。

土曜日は、海鮮巻き。当店人気の巻物です。前回大人気だった赤酢舎利を使用。そして、みんなが大好きな海鮮を巻き上げます。

日曜日は、歩久斗の北海丼。皆さん題名、お気づきですか? 「ほくとのほつかいどん」。…ほくと、ほつかい…店長と歩久斗さんとの会話から: 「ん?」と思ったのですが、おそろくかけたんだと(笑)。2人で盛り上がっておられました。

北海丼をドーンと販売します。海鮮たっぷり。もちろん今が旬の炙り秋刀魚! 今年はかせません。そして、カニもトッピング。8種の海鮮をお楽しみください。

是非、2日間、こ来店お待ちしております。

西田鮮魚店 副店長 越道 裕子



西田鮮魚店

☎72-5246

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489
(旧庄原市内はご自宅に配達)

『六角精児さん 庄原で応援ライブ』

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史



I 芸備線魅力創造プロジェクト

中国新聞。6月24日の朝刊22面に、六角精児がライブ演奏している写真が載っていた。来たのか庄原へ。

会場は西城の『ウイル』。

県内外から250人が詰めかけ、リモートでも110人が参加したと書いてある。知らなかった。

『芸備線魅力創造プロジェクト』という市民団体がクラウドファンディングを募り招いたそうだ。聴きたかった。

『呑み鉄』で知られる六角精児だ。おとしの9月23日の秋分の日にも、同じように芸備線の存続運動の応援にとジョイフルで講演されている。この時も野暮用で行けなかった。今はあのこと以上に六角精児にはまっている。残念だ。

II ふんわり

私はNHKのR1（第一放送）で毎週月曜日から金曜日の8時30分から11時45分までやっている『ふんわり』という番組をよく聞いている。

以前は金曜日の黒川伊保子が一推しだったのだが、今は木曜日の六角精児に変わった。

風貌もそうだが個性的だ。見た目のとおりだ。肩の力が抜けている。実にいい感じで抜けている。飽きない。美人とイケメンは3日で飽きる、その逆は3日でなれるという。見れば見るほど、聞けば聞くほど引き込まれた。

III 六角精児

水谷豊の『相棒』の鑑識官役で知った。それまでも端役で顔は見たような覚えがあった。どことなく、ひょうひょうとして、つかみどころのない印象だった。今でもそれは変わらないが、彼のトークを聞くと、懐の深い役者なんだと思ひ知らされる。

六角精児は小劇場の舞台役者。ふつう舞台役者で食っていくのは大変らしい。六角精児は、典型的な舞台役者だったみたいだ。

『ふんわり』でも当時をおもしろおかしく話す。

ギャンブル漬けの借金まみれ。ろくでもない男だった。本人が言うのだからまちがいない。ゲストで呼ばれた昔を知る役者仲間もそう口を合わせる。ほんとだろう。

結婚、離婚を繰り返し、今の奥さんと4人目のはずだ。その事実だけでも、六角精児のダメさがうかがえる。ただ、そのダメさがまっとうなのだ。純粹といってもいいかもしれない。だからだろう仲間、友達が多かったという。もつとも、その仲間も役者仲間。同じ穴のムジナだったのかもしれないが。

『ふんわり』に昔のそうした仲間を呼んでトークする。下積みころの話に花が咲く。やっぱり、舞台役者って大変なんだ。でもこれが嬉しい、おもしろい。今ではみんなそれなりに売れている。私は、どのゲストの名前も知らなかったが、ネットで写真を見たら、ああこの人かとわかった。ドラマのわき役で見知った人ばかり。他人事ながらよかったよかった。

IV 六角精児バンド

六角精児は『六角精児バンド』という自分のバンドを持っている。西城に来たのはそのバンドだろうが、このバンドの歌は聴かせる。彼の芸風そのものといってもいいかもしれない。飾らない。等身大とネットにあったが、その通りだ。高田渡のにおいがする。



例えば『お父さんが嘘をついた』という曲。

彼のすこしこもったような声と身につまされる歌詞とボサノバのリズム。絶妙だ。すぎもとまさとは違った意味で沁みってくる。自分をそのまま歌にしたらしい。

一 心の狭間を突いてくる ギャンブルという名の射幸心 30年つきあって確信がもてた そう負ける負けるどのみち負ける 深みに嵌まれば人格が壊れる 今日もおいらはどこかで負ける

二 若い頃からの偏食が祟り 尿酸値が異常に高い 痛風になったようだ 医者から食事制限を告げられる でも好きなものはなかなかやめれず 塩辛エイヒレあん肝このわた 今日もおいらは痛風におびえる

三 この頃なんかのはずみで 生活にすこし余裕ができた 呑み屋に行っても好きなものがあれこれ頼める でも体を思うと好きなものは頼めず 人にすすめる魚卵やホルモン それをおいらは横からもらう からすみ全国の珍味 高まる尿酸できる結石 結石がおりて震える尿道 冷や汗激痛訪れる無力感 今日もおいらは なんとか生きてる

V 『ふんわり』で語った芸備線

六角精児の鉄道オタクぶりも半端ではない。

『ふんわり』でも音楽と鉄道の話になると嬉々として話す。NHKのBSで流れる『六角精児の呑み鉄本線・日本旅』は8年も続く人気番組だ。こんなご縁が今回の西城でのライブにつながったのだろう。

9月26日。広島への車中。『らじる★らじる』の『聞きのがし』で前日の『ふんわり』を聞く私の耳に飛び込んだのは六角精児の『今週のおれ』というコーナーで話す芸備線、庄原、西城という単語。こんな風に話していた。

『広島の方に行きました。広島の方は中に入る備後庄原とか備後西城とかあるんですけど、芸備線の沿線に行って、で、その備後西城という駅があつて、その駅の施設でコンサートをやってきました。まあトークショーというかコンサートというか。』

まあ全国いろいろとローカル線が大変だという、芸備線もその中のひとつで、その芸備線をなんとかしようとしてらっしゃる方々がいらつしやるんですね。で、その人たちに依頼されて、まあ僕でよかつたら、という形で行って、コンサートしながら盛り上げよう。

まあ確かにね、あの、僕、部外者といったら部外者で、ただの鉄道ファンだし、まあ、その沿線の人じゃないですけど、まあ行つたから、その時は盛り上がるんだけど、その後はどうなるかということになっちゃうんですけども。

たとい過性のものでも、まあ為になつてくれればと思つて行つたんですけど。やっぱりねえローカル線の人たちが、沿線の人たちがいろいろ考えて、え、必要か必要じゃないかと考えてほしいなと思つていますから。それとやっぱり自分なりに訴えて、まあ部外者ですけど行つたんですけどね。これからどうなるか、ちよつとわからないんですけども、こういうことに関しては、いろいろみんなが考えていただきたいなと思いますよね。ホントにこういうことに関してはね。」

まだまだ話は続いた。NHKの全国放送。しかも人気番組。『芸備線魅力創造プロジェクト』のみなさんのせっかくの活動を一過性の盛り上りにすることのないように、知恵を出し合っていきたいものだ。

2025年10月5日